

使徒聖パウロエフェゾ人に贈りし書簡

冒頭

第一章 神の思召によりてイエズス、キリストの使徒たるパウロ、エフェゾに在る（凡ての）聖徒、並にキリスト、イエズスに於る信徒に「書簡を贈る」。二願はくは我父にて在す神及び主イエズス、キリストより、恩寵と平安とを汝等に賜はらん事を。

第一編 聖會の比なき光榮

第一項 エフェゾ信徒の為に感謝し祈禱す

三 祝すべき哉、我主イエズス、キリストの神及び父、是はキリストに於て諸の靈的祝福を以て我等を天より祝し給ひ、四 御前に於て聖にして汚なき者たらしめんとて、寵愛を以て、世界開闢以前よりキリストによりて選み給ひ、五 思召のまにまに、イエズス、キリストを以て己が子とならしめん事を預定し給ひたればなり。六 最愛なる御子に於て我等に賜ひし榮光ある恩寵の譽の爲なり。七 我等が贖を得、罪の赦を得るは、キリストに在りて其御血によれり、即ち神の豊なる恩寵に由れるなり。八 其恩寵我等に溢れて、諸の智慧及び悟を開けり、九 是御旨に従ひて、キリストを以て預定し給ひし思召の奧義を、我等に諭し給

はん爲なり。一〇 此思召は、時期の満つるに及びて一切のもの、即ち天に在るものをも地に在るものをも悉くキリストに於て一の首の下に輻め給ふに在り。一一 我等もキリストに於て選まれ、思召す儘に萬事を行ひ給ふもの量に従ひて預定せられたり、一二 是先んじてキリストを希望せし我等が、其光榮の譽たらん爲なり。一三 汝等も亦キリストに於て、眞理の言なる汝等の救霊の福音を聞き、且之を信じて約束せられ給ひたりし聖靈を以て證印せられしが、一四 之汝等の世嗣の保證として、獲られたる人々の贖となり、其光榮の譽と成らん爲に賜はりたるなり。一五 故に我も、主イエズスに於る汝等の信仰と、凡ての聖徒に對する愛情とを聞きて、一六 不絶汝等の為に感謝し、我祈禱の中に汝等を記念す。一七 祈る所は我主イエズス、キリストの神、光榮の父が、汝等に知識と黙示との靈を賜ひて神を識らしめ、一八 汝等の心の眼を明にして、其召によれる希望の如何を識らしめ、聖徒等に賜ふべき世嗣の光榮富の如何を識らしめ、一九 其全能の勢力の作爲によりて、信 奉る我等に於て、其勢力の如何に優れて偉大なるかを識らしめ給はん事はなり。二〇 其勢力をキリストに於て顯し、之を死者の中より復活せしめ、天に於て之を己の右に置き、二一 一切の権勢と能力と、勢力と主權との上、又凡て今世のみならず來世にも名けられて名あるものの上に置き給ひ、二二 萬物を其御足の下に服せしめ、教會の萬事の上に頭となし給へり。二三 即ち教會はキリストの御體に

して、萬物に萬事を満たし給へるものの充満ち給ふ所なり。

第二項 神が教會を建て給ひし方法

第二章 汝等は原己が過と罪とによりて死したる者なりしが、
二 曾て此世間に從ひ、又空中の權を有して今も尚不信の子等の
中に働ける、靈の君に從ひて歩めり。三 我等も皆曾て其罪の中に
在りて、我肉身の慾の儘に生活し、肉と心との欲する所を行ひ
て、他の人々の如く、生來怒の子なりき。四 然れども慈悲に富み
給へる神は、我等を愛し給ひて御寵愛の餘り、五 罪の為に死せ
し我等をキリストと共に活かし給ひ 汝等の救はれしも即
ち恩寵によれり、 六 又共に復活せしめ、キリスト、イエズ
スに於て共に天に坐せしめ給へり。七 是キリスト、イエズスに於
る其善良を以て、我等の上の於る恩寵の非常なる富を、將來の
世々に顯し給はん為なり。八 蓋汝等が信仰を以て救はれたる
は、恩寵に由るものにして自らに由るに非ず、即ち神の賜なり。
九 又業に由るにも非ず、是誇る人のなからん為なり。一〇 其は我
等は神の作品にして、神の豫め備へ給ひし善業の為に之に歩む
様、キリスト、イエズスに於て「新に」造られたる者なればなり。
二 然れば原肉體に於て異邦人にして、所謂割禮を人の手により
て身に受けたる人々より、今も尚無割禮と稱へらるる汝等、次
の事を記憶せよ。二 即ち彼時には、汝等キリストなくして、イ
スラエルの國籍外に置かれ、彼約束を結びたる諸契約に與ら

ず、希望なく、此世に神なき者たりしに、三 今はキリスト、イ
エズスに在りて、前に遠かりし汝等、キリストの御血を以て近
き者となれり。一四 蓋イエズスは我等の平和にて在す、即ち
兩方を一にし、隔の中垣及び恨を、己が肉體に於て解き、一五
種々の掟ある律法を、其命する所と共に廢し給へり。是平和を
成して兩方の人々を己に於る一人の新しき人に造らん為、一六
又一神一に對する恨を十字架の上に殺し、其十字架を以て兩方の
人々を一體と成し、神と和がしめ給はん為なり。一七 又來りて、
遠かりし汝等にも幸に平和を告げ、近かりし人々にも平和を告
げ給へり。一八 蓋キリストによりてこそ、我等兩方の人々は同
一の靈を以て父に近づき奉ることを得るなれ。一九 然れば、汝
等は最早他所人寄留人に非ず、聖徒等と同國民となりて神の
家人なり。二〇 使徒と預言者との基礎の上に建てられ、其隅石は
即ちキリスト、イエズスに在して、二 全體の建物は之に建築せ
られ、漸次に築上げられて、主に於て一の聖なる神殿となり、二
汝等も之に於て、聖靈により、神の住處として共に建てらる
るなり。

第三項 教會に於るパウロの聖役

第三章 是故に我パウロ、汝等異邦人の為にキリスト、イエズ
スの囚人たり。二 但汝等の為に我に賜はりたる神の恩寵の
分配の役をば、汝等は聞きしならん、三 即ち曩に簡單に書示し

たる如く、此奥義は黙示を以て我に示されたるなり。四 汝等はこれを読み、キリストの奥義に関する我が知識を覚るを得べし。五 此奥義は、今聖霊によりて、聖なる使徒等、及び預言者等に示されしが如くには、前代に於て人の子等に知られざりき。六 即ち異邦人が福音を以て、キリスト、イエズスに於て、共に世嗣となり、共に一體となり、共に神の約束に與る者となる事是なり。七 我は其福音の役者とせられたり、是全能の勢力によりて我に賜はりたる神の恩寵の賜なり。八 凡ての聖徒の中に於て、最も小き者よりも小き我に、キリストの究め難き富の福音を、異邦人に告ぐる恩寵を賜はれり。九 是萬物を創造し給ひたる神に於て、世の初より隠れたりし奥義の度の如何を、衆人に説明す恩寵にして、○ 神の多方面なる智慧が、教會を以て、天に於る權勢及び能力一者一等に知られん為、二 我主イエズス、キリストに於て全し給へる、世々の預定に應ぜん為なり。三 我等は彼に於る信仰によりて憚らざる事を得、希望を以て神に近づき奉る事を得。三 然れば希はくは、我が汝等の為に受くる患難に就きて、汝等の落胆せざらん事を、此患難こそ汝等の光榮なれ。四 我之が為に我主イエズス、キリストの父、五 即ち天にも地にも諸属の因て以て名けらるる所の父の御前に跪き、一六 汝等が其光榮の富に従ひ、其霊により、能力を以て内面の人として堅固にせられん事、一七 又信仰によりてキリストの汝等に宿り給はん事を希ひ奉る。是汝等は、愛に根ざし且基きて、

一八 凡ての聖徒と共に、広さ長さ高さ深さの如何を識り、一九 又一切の知識を超絶せるキリストの寵愛を識ることを得て、総て神に充滿するものに汝等の満たされん為なり。二〇 願はくは我等の中に働ける能力によりて、我等の願ふ所又知る所を超えて、尚豊に萬事を為し得給へるものに、二 教會及びキリスト、イエズスに於て、永遠の世に至るまで光榮あらん事を、アメン。

第二編 以上の教理より出づる實用的結果

第二項 教會一致の必要

第四章 然れば主に在りて囚人たる我、汝等に希ふ、汝等召されたる所の召に相應しく、二 凡ての謙遜と温良とを以て歩み、忍耐して愛を以て相忍び、三 平和の繫にて精神の一致を保つ様注意せよ。四 體は一、精神は一、猶汝等が召されたる其召の希望の一なるが如し。五 主は一、信仰は一、洗禮は一、六 一同の上に在し一同を貫き、一同の中に住み給へる一同の神及び父は一のみ。七 然るに我等面々に賜はりたる恩寵は、キリストの賜ひたる量に應ず、八 此故に「聖霊に」曰く、「上に昇りて俾を伴ひ行き、人々に賜を與へ給へり」と。九 抑昇り給ひしは、前に地の低き處まで降り給ひし故に非ずして何ぞや。一〇 降り給ひしものは、亦萬物に充滿たんとて、諸の天の上に昇り給ひしものなり。二 又或人々を使徒とし、或人々を預言者とし、或人々を

福音者とし、或人々を牧師及び教師として與へ給へり。二是聖徒等の全うせられ、聖役の嘗まれ、キリストの御體の成立たん為めなり。三即ち我等が悉く、信仰と神の御子を識る知識と一致に至りて完全なる人となり、キリストの全き成長の量に至らん為にして、四我等は最早小兒たらず、漂はざる事なく、人の偽と誤謬の巧なる誘惑との為に、教の風の風にも吹廻されず、五眞理に在りて、愛により萬事に就て頭に在らず即ちキリストに於て成長せん為なり。一六彼によりてこそ體全體に固り且整ひ、各四肢の分量に應ずる働に従ひて、凡ての關節の助を以て相聯り、自ら成長し、愛によりて成立つに至るなれ。

第二項 キリスト教の聖徳は異教人の惡徳に反す

一七故に我之を言ひ、且主に於て希ふ、汝等最早異邦人の如く歩むこと勿れ、彼等は己が精神の空しきに任せて歩み、一八智慧を暗まされ、身に有てる不知の為に、其心の頑固によりて神の生命より遠ざかり、一九感ずる事なく、放蕩に、所有る淫亂の業に、貪欲に、己を委ねたるなり。二〇然れど汝等がキリストを學びしは斯の如き事に非ず、二一若之に聴きて、眞理のイエズスに在るが儘に、彼に就きて學びしならば、二三即ち以前の行状に就きては、迷の望に従ひて腐敗する舊き人を脱棄て、二三精神の主義を一新し、二四神に象りて眞理より出づる義と聖徳とに於て

造られたる新しき人を着る事を學びしなり。二五然れば汝等僞を棄てて、各近き人と共に眞を語れ、我等は互の肢なればなり。二六汝等怒るとも罪を犯す事勿れ、汝等の怒の間に日没るべからず。二七惡魔に機會を與ふる事勿れ、二八盜める人は最早盜むべからず、寧困窮せる人々に物を施す事を得ん為に、働きて善き手業を為せ。二九不潔なる談話は一切汝等の口より出ずべからず、善きものならば聞く人々に恩寵を與へん為、要する人の徳を立つる様に之を為せ。三〇救の日を期して證印せられ奉りたる神の聖靈をして憂へしむる勿れ、三一總て苦き事、怒、憤、叫、罵をば一切の惡心と共に汝等の中より取除け。三二然て互に慈悲親切にして相恕す事、神もキリストに於て汝等を赦し給ひしが如くにせよ。

第五章 然れば汝等至愛なる小兒の如く神に做つ者となり、二又愛の中に歩みて、キリストも我等を愛し、我等の為に己を馨しき香の獻物とし、犠牲として神に捧げ給ひしが如くにせよ。三私通及び凡ての淫亂貪欲は、其名すらも汝等の中に稱へらるべからざる事、聖徒たる者に相應しかるべし。四或は汚行、愚なる談話、惡き戯言、是皆相應しからず、寧感謝すべきなり。五汝等覺りて知らざるべからず、凡ての私通者、淫亂者、貪欲者は、偶像を崇拜するに等しき者にして、キリスト及び神の國に於て世嗣たらざるなり。六誰も空言を以て汝等を欺くべからず、其は是等の事の為に、神御怒は不信の子等の上に降ればなり。

七 故に汝等彼等に與する事勿れ。八 蓋汝等曾ては暗黒なりしかど、今は主に在りて光なり、光の如くに歩め。九 光の結ぶ果は、凡ての慈愛と正義と眞實とに在り。一〇 如何なる事の神の御意に適ふかを試し看よ。一一 且果を結ばざる暗黒の業に與する事なく、寧却て之を咎めよ。一二 蓋彼等の窃に行ふ所は、之を口にするすら耻なり。一三 凡ての咎むべき事は光によりて顯る、凡て顯るるは光なればなり。一四 是故に言へる事あり、「眠れる人よ起て、死者の中より立上れ、キリスト 汝を照らし給はん」と。一五 然れば兄弟等よ、如何に慎みて歩むべきかに心せよ。愚者の如くにせず、一六 智者の如くに歩みて、日惡しければ良き機會を求めよ、一七 是故に神の御旨の如何を覺りて、思慮なき者となる事勿れ。一八 又酒に酔ふ事勿れ、其中に淫亂あるなり。寧ろ(聖)靈に満たされて、一九 靈的の詩と讚美歌と歌とを以て語合ひ、又心の中に謳ひて主を讚美し奉り、二〇 常に我主イエズス、キリストの御名を以て、萬事に就きて父にて在す神に感謝し、二一 キリストを畏れ奉りつつ互に歸服せよ。

第三項 家庭に於る信者の義務

二三 妻たる者は己が夫に従ふ事、主に於るが如くにすべし、二三 其は夫が妻の頭たる事、キリストが教會の頭にして、自ら其體の教主に在せるが如くなればなり、二四 然れば教會のキリストに従ふが如く、妻も亦萬事夫に従ふべし。二五 夫たる者よ、汝等

の妻を愛する事、キリストも教會を愛して、之が爲に己を付し給ひしが如くにせよ、二六 己を付し給ひしは(生命の)言により、水洗にて之を潔めて聖とならしめん爲、二七 光榮ある教會即ち染なく、皺なく、然る類の事もなき教會を、自ら己が爲に備へて、之をして聖なるもの、汚なきものたらしめん爲なり。二八 斯の如く、夫たるものも亦己が妻を我身として愛すべきなり、妻を愛する人は是己を愛する者なり。二九 蓋曾て如何なる人も、己が肉身を嫌ひし事なく、却て之を養ひ守る事、猶キリストが教會に爲し給ひしが如し、三〇 其は我等は其御體の肢にして、其肉より其骨より成りたればなり。三一 故に人は父母を措きて己が妻に添ひ、而して二人一體となるべし、三二 是大いなる奧義なり、我はキリスト及び教會に就きて之を言ふ。三三 然れば汝等も各己が妻を己として愛し、又妻は夫を畏敬すべし。第六章 子たる者よ、主に於て汝等の父母に從へ、蓋是正當の事なり。二 汝の父母を敬へ」とは、約束を附したる第一の掟にして、三 即ち「汝が福を得て地上に長命ならん爲」となり。四 父たる者よ、汝等も其子等の怒を買ふ事なくして、主の規律と訓戒との中に之を育てよ。五 奴隸たる者よ、キリストに従ふが如くに畏れ慄き、單純なる心を以て肉身上の主人に順へ。六 人々の意に適はんとするが如くに目前のみにて事へず、キリストの奴隸として心より神の思召を爲し、七 事ふる事、人に於てせず主に於てするが如くに、快くせよ。八 其は奴隸たる自由の身た

るとを問はず、各自の爲したる善は、何れも主より報いらるべしと知ればなり。九 主人たる者よ、汝等も亦奴隷に對ひて爲す事斯の如くにして、彼等に威嚇を加ふること勿れ、其は彼等と汝等との主天に在して、人に就きて偏り給ふ事なしと知ればなり。

第四項 信者は雄々しく信仰の為に戦ふべし

一〇 終に臨みて、兄弟等よ、汝等主に於て又其大能の勢力に於て氣力を得、二 惡魔の計畫に勝つことを得ん爲に、神の武具を身に着けよ。三 其は我等の戦ふべきは血肉に對ひてには非ず、權勢及び能力、此暗黒の世の司等、天空の惡靈等に對ひてなればなり。三 然れば惡き日に抵抗し、萬事に成功して立つ事を得ん爲に、神の武具を執れ。四 然れば起て汝等、腰に眞實を帶し、身に正義の鎧を着け、五 足に平和の福音に對する奮發を履き、六 凡ての場合に於て惡魔の火箭を消すべき信仰の楯を執り、七 救靈の兜と神の御言なる「聖」靈の劍を執り、八 尚且凡て祈禱及び懇願を以て、何れの機會に於ても聖靈に由りて祈り、忍耐を以て聖徒一同の為に懇願する事に注意せよ。九 又我爲にも然なして、我は福音の奧義の為に鎖に繋がれたる使節なれば、憚らず口を開きて之を知らずる様、言を賜はり、一〇 之に就きて我が語るべき儘に敢て語る様に祈れ。

結末

三 我に關する事、我爲す事を汝等も知らん爲に、我至愛なる兄弟にして主の忠實なる役者たるチキコは、萬事を汝等に告ぐるならん。三 我が彼を遣はししは之が爲、即ち彼が我等に關する事を汝等に知らせ、汝等の心を慰めん爲なり。三 願はくは父にて在す神、及び主イエス、キリストより、平安と愛と信仰とを兄弟等に賜はらん事を。四 願はくは我主イエス、キリストを變らず愛し奉る凡ての人に恩寵あらん事を、アメン。